

日本の学校では、子どもたちの母国の学校にはない多様な教育活動があり、子どもたちの全人的な成長を支えています。きぼうでは、日本語や算数の学習以外にも学校の様々な教育活動に触れることが、子どもたちの学校生活への適応や育ちに大切だと考えています。今回は、ゲストティーチャーを招いて行った「給食指導、保健指導、図書館指導」の3つの活動をご紹介します。

給食指導

母国の学校では、給食がないことの方が多く、子どもたちは好きなものを自由に食べる生活に慣れてしています。そうした子どもたちは、食べることと健康の関係を理解することが難しいようです。そこで、栄養教諭の外山先生にお願いし、食育の学習として、食べ物の働きや学校給食についての授業をしていただきました。

①3つの食品群



体をつくる栄養素について学習し、好き嫌いをなく食べることの大切さを学びました。カルシウムをしっかり取った丈夫な人の骨と、スカスカな人の骨を表現したペットボトルの模型を実際に触らせてもらい、違いを確認しました。その後、「カルシウムを多く含む乳製品をしっかり取ると骨が丈夫になるよ。」という話を聞き、「牛乳は苦手だけど、少し飲んでみようかな」と言う児童もいました。

②学校給食ができるまで

調理場で実際に使われるしゃもじやひしゃく、大きな鍋の絵などを見せられました。子どもたちは、自分たちの身長より大きなしゃもじにとっても驚いていました。「大きな鍋はどうやって洗うのか」「鍋の火はどうやってつけるのか」など疑問に思ったことを積極的に質問し、鍋は傾けて洗うこと、火は使わずに蒸気で調理していることなどがわかりました。



授業のふり返りでは、「自分が嫌いな野菜や牛乳も少しずつ食べられるようにしたい」など、食に対する意識が変わった児童の姿が見られました。

保健指導

養護教諭の神谷先生のお話を聞き、体の清潔について学習しました。「歯の磨き方」については、大きな歯の模型を見ながら、歯ブラシを細かく動かすと、すみずみまできれいに磨けるということがわかりました。

「手の洗い方」では、実際にどこに一番汚れが残るやすいか実験をしながら、手を清潔にするための大切さを知ることができました。

(2) わかったこと	O que soube, o que entendeu
<p><i>gostar de aprender sobre as vitaminas, foi legal saber também o tamanho e o peso dos utensílios.</i></p> <p>栄養のことがよくわかってよかったし、道具の重さや大きさがわかったのが楽しかった。</p>	
(3) これからがんばること	O que vai se esforçar daqui em diante
<p><i>vou me esforçar para comer verduras que não gosto muito!</i></p> <p>自分がきらいな野菜もがんばって食べる。</p> <p>大切だね。僕が先生に教えてもらった。</p>	



どちらの授業も、栄養教諭の外山先生、養護教諭の神谷先生が、具体物を用意して子どもたちの興味や関心を上手く引き出してくださり、楽しい授業でした。

図書館指導

子どもたちの母国の学校には図書館がないことが一般的です。そのため「本を借りる、返す」ということがわからず、返却せずトラブルになることもあります。そこで、学校図書館司書の羽柴さんに図書館の使い方について説明してもらいました。



本の借り方と返し方、図書館にはどんな順番で本が並んでいるかを教えてもらい、実際に本を借りて読みました。次の在籍校登校日に図書カードを作ってもらって、実際に借りに行くのを楽しみにしていました。

様々な役割を担う専門の先生方が関わってくださることで、子どもたちはよく理解でき、考えが深まったようです。同時に多くの大人の話聞くことは、外国人の子どものキャリア教育の一步として大切なことだと感じています。

さて「きぼう」での学習期間に、子どもたちは社会科学習の一端に触れる授業として、「調べ学習」をしています。次に、キャリア教育と関連付けて行っている「調べ学習」の紹介をします。

社会科

まず、NHK for school「コノマチ☆リサーチ」の「“シゴト”ってなんだ？」を視聴し、仕事にはどんなものがあるかを考えました。次に日本語での職業の言い方を練習し、自分が興味ある仕事は何かを発表しました。子どもたちは楽しそうに医者、消防士、バレリーナ、作家、スポーツ選手など挙げていました。

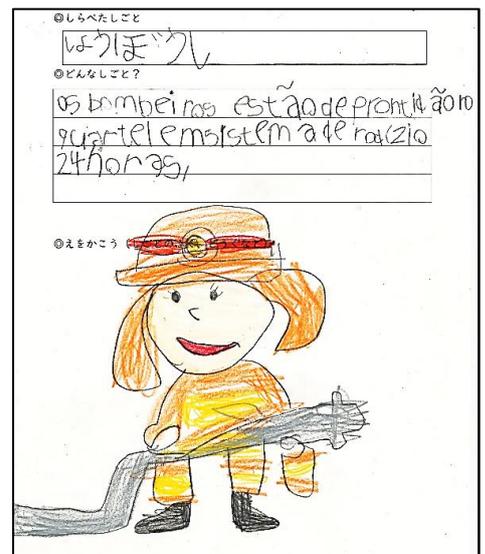
その後、自分が興味ある仕事を詳しく調べるためには、どんなツールがあるか話し合いました。今までに調べ学習をしたことのある子は、本やインターネットで調べると言っていました。

今回は、子どもたちに「学研キッズネット 未来の仕事を探せ!」を使って、調べることを指示しました。「未来の仕事」では、どんな仕事なのか、なるためにはどうするか、その仕事は将来どうなっていくのかなどが書かれています。ルビもついているので、平仮名を学習した子どもは読むことができます。この授業では、子どもたちはタブレットの翻訳機能を使って、自分たちの言語に翻訳して理解を深めました。右の写真は、通級2日目の2年生の児童が書いたものです。消防士の服装や、必要な道具もよく書けていました。

こうした活動を通して、自分たちの将来を想像したり、職業について理解を深めたりしてほしいと願っています。

NHK for school

キッズネット未来の仕事



伊藤ノルリン相談員のフィリピン紹介

今回は、フィリピンの伝統的な遊び(ラロン・ラヒ)を2つ紹介します。今の子どもたちは、インターネットや携帯電話の普及により、あまり外で遊ばなくなりました。コロナ禍で外出が制限され、さらに外で遊ぶ機会が減っていると聞いています。私が幼い頃は、外でたくさんの友達と遊ぶことが多く、楽しかった思い出があります。

一番人気だったのは、「ルクソン・ティンク(Luksong Tinik)」です。

手と足を使って、とげに見立てて遊びます。二人で向かい合って足の裏を合わせ、その上に手を置き、そこを飛び越えるという遊びです。飛び越えることができれば、また誰かがその上に手を置いてどんどん高いところを飛び越えていく遊びです。どれだけ高く飛び越えることができるかを競い合います。飛び越えるのが大変ですが、できるとみんな大喜びです。

「タンバンプレソ(Tumbang Preso)」は、空き缶を狙って、ビーチサンダルを飛ばします。日本の缶蹴りに似た遊びです。空き缶にサンダルが当たると、空き缶を回収して元に戻します。

その他にも、日本にあるゴム跳びや鬼ごっこなどもありました。どの遊びも簡単なので、ぜひみなさんの学校でもやってみてください。